

ごあいさつ

今年度の「東洋古陶磁展」はたましんコレクションの東洋古陶磁を一会期で展示します。副題は「中国・朝鮮・日本の古陶磁」としましたが、展示は日本・朝鮮・中国の順として、技術の源をたどるような流れとしてみました。

やきものは土器に始まり、焼成に用いる窯を工夫し、さらに窯構造や焼成方法の発展によって高温で焼成できるようになると、燃料の灰が器物の粘土と化合してガラス化する「自然釉」が生じたことから、その現象に着目して「釉薬」が作りだされ、それを洗練させて青磁や白磁が完成されました。白磁に用いられた透明釉は、顔料となる鉱物を加えることで各種の色釉が得られるばかりか、透明釉下に模様を描く「釉下彩」技法を導きだし、さらに白磁は釉上に各種の色釉で模様を描く「色絵（五彩）」の基盤ともなって、やきものの多様化を進めることとなりました。こうした技法は中国で開発され、発展させてその技術を周辺各地に伝えているのです。

朝鮮や日本でもその技術を享受し、さらにその国柄にあわせて独自のやきもの文化を展開させています。したがってやきものから各国の歴史や文化を眺めることができるのです。この度はそのようなやきものの面白さを味得していただければさいわいです。

2013年1月

たましん歴史・美術館

東洋古陶磁展 — 中国・朝鮮・日本の古陶磁 —

【日本】		
信楽壺		室町時代
縄文壺	亀ヶ岡様式	縄文時代晩期
縄文壺	亀ヶ岡様式	縄文時代晩期
銚釉染付桐龍文皿	伊万里	江戸時代
染付山水文皿	伊万里	江戸時代
染付石榴文皿	伊万里	江戸時代
染付葡萄蝶文皿	伊万里	江戸時代
染付福字文面取瓶	伊万里	江戸時代
白磁瓜形釣花入	伊万里	江戸時代
染付山岳文筒形瓶		江戸時代
染付双鳥牡丹文皿	伊万里	江戸時代
色絵S字文水注	伊万里	江戸時代
色絵幾何文壺	伊万里	江戸時代
色絵幾何文壺	伊万里	江戸時代
色絵唐花文皿	鍋島	江戸時代
色絵菊流水文皿	鍋島	江戸時代
染付抱茗荷文向付	鍋島	江戸時代
色絵椿青海波文皿	鍋島	江戸時代
【朝鮮】		
青磁蓮花文瓶		高麗時代
青磁象嵌蒲柳水禽文瓶		高麗時代
青花透彫蓮花文筆筒		朝鮮王朝時代
青花菊仏手柑文壺		朝鮮王朝時代
粉青沙器草葉文瓶		朝鮮王朝時代
白磁壺		朝鮮王朝時代
鉄砂雲龍文壺		朝鮮王朝時代
【中国】		
黒陶蛋形壺		前漢時代
三彩官人俑		唐時代
青磁蛙飾壺	越州窯	西晋～東晋時代
黒釉天鶏壺	越州窯	東晋時代
青磁天鶏壺	越州窯	六朝時代

白磁蓮花文鉢	定窯	北宋時代
白地鉄絵草蝶文双耳壺	磁州窯	金～元時代
青花花唐草文壺	景德鎮窯	明～清時代
五彩仙人文角瓶	景德鎮窯	明～清時代
青花山水人物文盒子	景德鎮窯	明～清時代
緑彩雲龍文盤	景德鎮窯	明時代・正徳
五彩龍鳳文盤	景德鎮窯	明時代・万暦
灰陶加彩牛車		六朝時代

【併設】倉田三郎「旅の素描」展

聖蹟桜ヶ丘（日本）	30.0×38.0	コンテ・水彩
桂林・灘江沿ひ（中国）	22.4×32.2	コンテ・水彩
ソウル・雲堂旅館前横丁（韓国）	19.1×30.5	コンテ・水彩
川沿風景（タイ）	16.7×27.8	鉛筆・水彩
ニューデリー風景（インド）	24.4×34.3	コンテ・水彩
カイロの寺院（エジプト）	24.4×34.8	コンテ・水彩
アテネ・アクロポリスの丘（ギリシャ）	22.6×29.1	コンテ・水彩
チューリッヒ・湖船Ⅱ（スイス）	20.0×28.3	コンテ・水彩
ウィーン郊外（オーストリア）	23.0×34.0	コンテ・水彩
チボリの噴水（イタリア）	24.0×28.8	コンテ・水彩
パルマ・マヨルカ島（スペイン）	22.3×32.2	コンテ・水彩
ウィックロウ・めがね橋（アイルランド）	25.8×33.7	コンテ・水彩
ストックホルム・街（スウェーデン）	12.7×19.4	コンテ
ロンドン・テムズ河畔（イギリス）	22.0×33.0	ペン・水彩
キエフ風景（ソ連）	24.8×32.9	コンテ・水彩
プラハ・町の通り（チェコスロバキア）	20.4×26.0	コンテ・水彩
ニューヨーク・マンハッタン（アメリカ）	28.8×22.6	コンテ・水彩
トロントからセント・トーマス（カナダ）	11.9×15.7	コンテ・水彩
キャンベラ風景（オーストラリア）	23.7×29.9	コンテ・水彩